



男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部・ダイバーシティ推進センター

2021年度（令和3年度）男女共同参画推進活動

2021年度は2020年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症」の度重なる流行のために、感染予防の実施や、オンラインによる会議やセミナー、講演会の実施など、従来とは異なる事業の展開を余儀なくされました。そんな中にありながらも、本学の男女共同参画推進活動は、男女共同参画推進本部、ダイバーシティ研究環境支援本部、キャリア開発支援本部による取組に加えて、ダイバーシティ推進センターによる文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019年度～2024年度）の様々な取組が実施されました。

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の特色ある取組である「附属病院をもたない機関における訪問型病児・病後児保育システムの構築」では、病後児保育支援を希望する利用者に対し、2021年4月10日より「ならっこ病後児保育支援」の試験運用を開始しました。今後は支援実績を重ねて、安全面に配慮しつつ、受入基準や支援時間を広げて病児保育へ移行することが課題です。ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの事業は今年度が3年目となり、11月に中間評価ヒアリングを受け、12月に総合評価Aをいただきました。来年度からの3年間は自主経費のみでの運用になり、「訪問型病児・病後児保育システム」を地域へ普及させることが期待されており、共同実施機関との連携から普及を見据えた対話が始まっています。2022年2月21日には、中間総括シンポジウム「女性研究者支援の歩みとこれから」が開催されました。代表機関および共同実施機関からの報告の後、共同実施機関の武庫川女子大学河合優年副学長から「構造と機能という視点から見た女性研究者支援」というテーマで話題提供がありました。オンライン開催ということもあって100名近い参加者があり、活発な議論がかわされました。

また、「奈良女子大学博士号取得支援SGCフェローシップ」と「奈良女子大学博士後期課程学生支援SGC+プロジェクト」が開始されました。これらの制度は優秀な女子学生が経済的負担や学位取得後のキャリアパスに過大な不安を抱えることなく、博士後期課程へ進学し研究できる体制を構築することを目的としております。

男女共同参画推進機構、ダイバーシティ推進センターにおける取組はますます発展、拡大しております。来年度も引き続き気を引き締めてさまざまな事業を進めていきたいと思っております。みなさまのご理解ご協力をお願い申し上げます。



文部科学省人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

Zoom
オンライン開催
※参加費無料
※後日オンデマンドで配信予定

Symposium Program

13:30 開会の挨拶
奈良女子大学副学長（男女共同参画担当） 安田恵子
奈良女子大学長、ダイバーシティ推進センター長 今岡春樹
奈良女子大学副学長、キャリア開発支援部長 山本美穂
文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室 山本美穂
国立研究開発法人 科学技術振興機構（IST）プログラム室長 山村康子

13:40 代表機関からの報告
奈良女子大学、ダイバーシティ推進センター 特任教授 豊本英江
共同実施機関からの報告
●奈良女子大学工学部情報理工学専攻 山本美穂
男女共同参画推進委員会委員長 松村寿枝
武庫川女子大学学術振興科学部助教授 佐藤美穂
女性活躍推進委員会 ダイバーシティ推進部門リーダー 塩塚美奈
株式会社プロダクト、代表取締役社長 佐藤美奈
個人キャリア開発株式会社 代表取締役社長 佐藤美奈
佐藤美奈

15:30 閉会の挨拶
武庫川女子大学副学長 河合優年
●構造と機能という視点から見た女性研究者支援
共同実施機関からの報告
奈良女子大学副学長 安田恵子

申込み方法（事前申込み必須、参加費無料）
下記URLより申込みください。メールでもお申込みいただけます。
<https://forms.gle/9d8wz4EAKJ26aC8>
●メールでの申し込み先、問い合わせ窓口
奈良女子大学ダイバーシティ推進センター
diversity@nwu.ac.jp/0743-221-1111

申込み締切：2月16日（水）

代表機関 奈良女子大学
共同実施機関 奈良女子大学工学部情報理工学専攻、武庫川女子大学、株式会社プロダクト、個人キャリア開発株式会社、奈良女子大学学術振興科学部

「連携から普及」を見据えた環境整備と育成

女性研究者支援の歩みとこれから

2022.2.21
MONDAY 13:30-16:15

2019年度に運営された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業は、連携実施機関の協力の定着や成果の顕在化、さらなる事業の発展を促します。今回のシンポジウムでは、これまでの成果を報告すると共に、今後に向けた課題を把握します。本事業の特徴である訪問型病児・病後児保育システムの構築をはじめとした研究環境構築、女性研究者の研究力向上に向けた活動とその進展等について報告し、これらを見据えた女性研究者支援のあり方について議論を深めます。

ダイバーシティ推進センター



奈良から 関西から 女性研究者の支援を牽引 ～全国に広がれ！ダイバーシティの取組～

本学を代表機関として、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社（以下「共同実施機関」）との連携のもとで、2019年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。様々な取組を実施し地域における女性研究者の活躍推進を牽引することを目指します。事業の活動拠点として「ダイバーシティ推進センター」が設置されています。

2021年度「ダイバーシティ推進センター」の活動

代表機関・共同実施機関では独自の取組を実施するとともに、ダイバーシティ推進センター（以下、推進センター）において実務者会議（オンライン会議を含む）を開催して、進捗状況や今後の実施内容について意見交換を行い情報共有を図り、推進センターとしての取組を進めている。推進センターには3つの部門「研究環境支援・研究力強化部門」「キャリア形成・国際力支援部門」「意識啓発・広報・リーダー育成部門」があり、本学の男女共同参画推進機構の3本部と密接な連携を取りながら活動を行っている。本事業に関係する本学での取組は3本部の活動と重なる部分があるので、それは省略させていただく。ここでは、本事業の特色ある取組と新たに実施された取組について紹介する。

中間総括シンポジウム『女性研究者支援の歩みとこれから～「連携から普及」を見据えた環境整備と育成～』開催

2022年2月21日（月）中間総括シンポジウム『女性研究者支援の歩みとこれから～「連携から普及」を見据えた環境整備と育成～』をオンラインで開催した。2019年度に選定された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業は、連携6機関の協力の下で様々な取組を実施し、まもなく3年度目を終える。代表機関から春本晃江（ダイバーシティ推進センター特任教授）が、共同実施機関から松村寿枝氏（奈良工業高等専門学校情報工学科教授・男女共同参画推進委員会委員長）、福尾恵介氏（武庫川女子大学食物栄養科学部教授・女性活躍総合研究所ダイバーシティ化推進部門リーダー）、生駒京子氏（株式会社プロアシスト代表取締役社長）、吉村慶夫氏（帝人フロンティア株式会社人事部長）、前田晋也氏（佐藤薬品工業株式会社総務部次長）の各氏が、これまでの成果を報告し今後に向けた展望について述べた。更に、河合優年氏（武庫川女子大学副学長）より、「構造と機能という視点から見た女性研究者支援」と題して、女性研究者支援が実を結ぶためには、具体的な取組の他にもう一つ何かが必要なのではないかという新たな視点から、話題提供が行われた。参加者数は約100名で、後日オンデマンドで配信された。（図はシンポジウムのスライド）



2019年度選定 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

2021年度 中間総括シンポジウム

代表機関からの報告

代表機関 国立大学法人
奈良女子大学
発表者：春本晃江
(代表機関・実施責任者)



共同実施機関 奈良工業高等専門学校
武庫川女子大学
株式会社プロアシスト
帝人フロンティア株式会社
佐藤薬品工業株式会社



2. 取組の具体例 [(1)研究環境整備] | 地域への普及に着目

「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築 → 地域への普及

- 各機関のニーズを把握し、それぞれの機関が使いやすいシステムの構築をめざす
- 連携機関の存在を最大限に活用してモデル構築を行い、広く全国への普及をめざす



2. 取組の具体例 [(2)女性研究者の研究力強化]

連携機関が共同して行った、女性研究者の研究力強化に向けた取組例シンポジウム

2019年度	キックオフシンポジウム
2020年度	「附属病院をもたない機関における病児・病後児保育の実現に向けて」
2021年度	中間総括シンポジウム

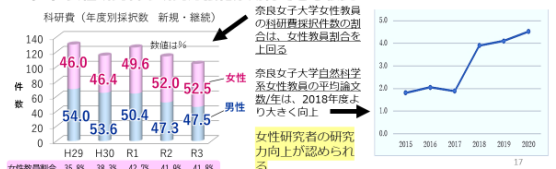
意識啓発のためのセミナー・講演会
研究力向上のためのセミナー・講演会
管理職向けFD研修会

3. 取組の成果 | 業績を指標とした取組の成果の評価

(1) 研究環境整備による成果

研究支援員の配置 (大学、高専)	その他の環境整備
利用者25名の登録：2019-2020 論文数 平均2.4編* 計61編 10編以上 3名 *最多(7編)と最少(0編)2名を除外 研究スキルアップ支援費/チャレンジ支援費 利用者の業績は顕著（論文、科研費の獲得） ▶ ライフイベントとの両立が可能に	● ワークライフ(バランス)支援相談室の共同利用 ● 「女性管理職支援制度」の新設と実施 (奈良女大、武庫女大) ● 「ライフイベントからの復帰研究スタートアップ支援費」の新設と実施 (武庫女大) ● 在宅勤務制度の制度化。各機関に配慮した転勤制度の構築 (帝人フロンティア社) ● 意識啓発活動講演会等 (R1.1.9, R2.3.6, R3.3.6)

(2) 女性研究者の研究力強化が期待できる根拠



中間評価：全ての項目でA評価（総合評価A）

科学技術振興機構（JST）から、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の中間評価が発表され、すべての項目でA評価、総合評価Aを獲得した。以下は評価コメントより抜粋

「関西圏の2つの女子大学、1つの工業高等専門学校、3つの企業が連携し、女性研究者・技術者の活躍促進を目指した研究環境整備の一環として、既存の「訪問型」子育て支援システム（ならっこネット）を活用した「訪問型」病児・病後児保育システムの基盤を整備したことは評価できる。既に当該システムの試験運用を開始しており、今後の本格運用、他機関への波及効果が期待できる。女性研究者・技術者の採用、上位職への登用に積極的に取り組み、連携機関の大半で女性研究者採用比率が50%以上に上昇したことは評価できる。関西圏の女子大学及び奈良県内企業等が参画する「関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワーク」を構築し、意識啓発や共同研究を進めており、産学共同研究における女性研究者・技術者の活躍促進が期待できる。今後は、6機関、さらにはネットワークに参画する機関の連携を更に深め、実質的な成果を挙げることを期待する。」

「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築

1. 昨年度に引き続いて「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築のため、専門家を入れた検討WGにおいて、様々な課題について具体的な検討を行った。
2. 4月、奈良市へ「病児保育事業開始届出書」を提出し受理された。「ならっこ病後児保育支援」の試験運用を開始した。
3. ならっこ病児・病後児保育支援登録説明会を行い、サポーターおよび利用者登録を開始した。
4. 病児・病後児保育支援のサポーター講習会を開催した。
5. 「訪問型」病児・病後児保育システムの地域への普及のために、連携機関や自治体等と意見交換を行った。
6. 10月、奈良女子大学とプロアシスト社との共同実施作業である子育て支援Webシステム「Webならっこ」の全面改修作業が完了し、運用を開始した。
7. 奈良女子大学子育て支援Webシステム「Webならっこ」の武庫川女子大学での導入に向けた共同開発の作業打合せを行った。

女性研究者の上位職への登用にに向けた取組

2019年度に制定した女性管理職支援制度を2021年度には1名の女性管理職の方に適用した。

ならっこネット・ならっこルーム・ワークライフバランス支援相談室の共同利用

「ならっこネット」の共同利用として武庫川女子大学教員の方の利用者登録があった。ワークライフバランス支援相談室の共同利用も進め、延べ約30名の共同実施機関からの利用があった。新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、ミニ講座をオンラインで開催し、共同実施機関にもより利用しやすくした。

共同研究スタートアップ支援事業を6機関連携で実施

6機関の連携で共同研究スタートアップ支援事業を実施し、女性研究者が代表研究者となっている4件の共同研究が採択された（奈良女子大学1件、奈良工業高等専門学校1件、武庫川女子大学2件）。

特に優秀な女性研究者の顕彰と研究費支援を3機関連携で実施

奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学の連携で、特に優秀な女性研究者対象の賞「ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」の募集を行い、2名の女性研究者（武庫川女子大学2名）が選ばれ、研究費が支援された。

女性研究者の研究力向上のための支援

競争的資金獲得のための講演会（2020年度開催の講演会）を再度オンデマンドで配信した。

関西圏女子大学発・産学連携ダイバーシティ推進ネットワークの構築

本事業では、ライフイベント等に配慮した研究環境の改善や、それに向けた機関内の意識改革、女性研究者の研究環境整備、研究力向上等に取り組むとともに、これらの取組を通じて地域におけるダイバーシティの推進を牽引することを目指している。標記のネットワークは、関連する情報を連携機関や協力機関等で共有するためのネットワークとして構築された。2022年2月末現在29機関（大学・高等専門学校14機関、企業・団体15機関）が参画。

2020年度成果報告書の発行と外部評価の実施

事業2年度の成果をとりまとめた成果報告書を発行し、4名の委員による外部評価が実施された。また、令和3年度および事業3年間の外部評価をオンラインで実施した。

【お問い合わせ】 奈良女子大学ダイバーシティ推進センター

✉ diversity-center@cc.nara-wu.ac.jp

URL: <https://diversity-center.nara-wu.ac.jp/>

男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体の男女共同参画への取組に対する貢献などを行っています。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域貢献事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は「コロナ禍における女性と子どもの困難とその支援」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回

「ウィズコロナの時代を生きるうえで大切なことーコロナ禍の子どもと女性の支援」

【日時・場所】 2021年11月11日（木）14：30～16：00 オンライン開催

【講師】 日下 紀子氏（ノートルダム清心女子大学准教授）

【参加者】 161名（オンライン配信51名、オンデマンド配信110名）

講演では、コロナ禍によって否応なく生活様式が変化するなかで、母・妻・社会人といった多重の役割を求められる女性が孤独や不安、罪悪感を募らせていること、また、これまで当たり前でできていたことができなくなったことが、子どもたちに過剰な努力や我慢を強いていることなどが最初に述べられ、一方で、プラスの側面として、マスク着用やオンライン授業といった新しい生活様式によって安心感を得る人たちがいることにも触れられた。そして、このような正解がわからない、先行きが見えない不安と上手く付き合いながら、ウィズコロナの時代を生きるために大切なこととして、イギリスの詩人ジョン・キーツの造語、「ネガティブ・ケイパビリティ」が紹介され、答えが出ない状況、対処できない状況を耐え抜き、改善のために努力し探索し続けることのできる資質・能力を養うことの重要性が語られた。チャット機能と音声による意見交換も活発に行われた。質疑応答の場面においても、日下氏は「孤立させない」「対話する」「ともに考える」といった言葉を繰り返し用いて回答し、氏の述べる「答え合わせのない問題に対して、わからないことを考え続ける」ということと相俟って、子どもと女性の支援のあり方や、そのために必要なものについて考える材料をご提供いただいた。



地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回

「改めて女性活躍を考える～若草プロジェクトの活動から見えるもの～」

【日時・場所】 2022年1月14日（金）14：00～15：30 オンライン開催

【講師】 村木 厚子氏（元厚生労働事務次官、「若草プロジェクト」代表呼びかけ人）

【参加者】 261名（オンライン配信108名・オンデマンド配信153名）

講演の前半では、公務員として働いていた37年半の内約10年に渡り取り組んだ「女性」の問題についてお話いただいた。国が「女性活躍」の施策を社会全体の変化と対応して打ち出してきたことを、多くのデータを示しながら解説して下さった。これまでに様々な施策が行われたにも関わらず、日本のジェンダーギャップ指数がじりじりと下がり続けているのは、“他国に比べ改革・改善のスピードが遅い”からであり、その理由を“取り組むべき施策が腑に落ちていないから”ではないかと指摘された。

後半では、困難を抱える少女や若い女性を支援する「若草プロジェクト」について、ご紹介いただいた。プロジェクトは「誰一人取り残さない」というSDGsの目標に合致するもので、問題を抱える人達にあらゆるアプローチをしようと取り組んでおられ、そこに共通するのは「相談しにいらっしやい」という待ちの姿勢ではなく「わたしたちはあなたの味方」だと話しかけ寄り添う姿勢である。悩みや問題を「人に相談して良い」のだと分からない人は多く、その人達を助けるにはどうアプローチするべきか、村木氏の話から多くの気づきを得た。社会を鎖に例えれば「鎖の強さは最も弱い輪の強さで決まる」のであり、最も弱い輪が強くなると鎖全体の強さが増す＝弱い立場に置かれている人の環境を良くすると社会全体が良くなるのだ、という話もあった。

質疑応答においても活発に意見交換が行われ、幅広く様々な視点から女性活躍について考える良い機会となった。



関西圏の女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2021年度は以下の4回のワーキンググループ会議が開催された。

2021年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第45回	6月18日	オンライン開催	第10回異分野交流会開催の打ち合わせ
第46回	12月8日	オンライン開催	第10回異分野交流会について（発表演題確認と役割分担）
第47回	2月5日	オンライン開催	第10回異分野交流会について（開催とその反省） 第11回異分野交流会の開催について

異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催し、それ以後毎年開催してきた。今年度は第10回異分野交流会を武庫川女子大学（オンライン）で開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。

◆第10回異分野交流会

日時： 2022年2月5日（土）13：00～17：00

会場： 武庫川女子大学 ZOOM開催

テーマ： 「みつける」「ささえる」「つなげる」

参加者： 37名

【プログラム】

13：00 開会 あいさつ 武庫川女子大学学長 瀬口和義氏

13：10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）

15：30 異分野交流会（グループワーク）

16：30 グループワークまとめ発表

17：00 閉会

【発表者と演題】

1. 枝松 奈美（神戸松蔭女子学院大学）
「日本語母語話者のひらがな認識の弁別的要素」
2. 辻 多重子（武庫川女子大学）
「在宅療養高齢者における食品摂取多様性と低栄養との関連性の検討」
3. 豊永 洵子（武庫川女子大学）
「効果的なダンス文化の普及に向けた教育プログラムの開発について」
4. 須川 真奈江（奈良女子大学）・ 星野 聡子（奈良女子大学）
「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による地域在宅高齢者のQOLへの影響
—2年間の追跡調査より—」
5. 奈良 久美（奈良女子大学）
「植物の環境に応じた水輸送調節の仕組み：アクアポリンのはたらきを探る」
6. 西川 良子（神戸松蔭女子学院大学）
「コロナ禍における未婚女性の結婚式観について」
7. 小林 政子（武庫川女子大学）
「着物修繕の痕跡に関する調査—武庫川女子大学近代衣生活資料から—」

文部科学省科学研究費助成事業
ダイバーシティ研究推進特別フェーズ（重点型）
関西圏女子大学連携プロジェクト

第10回 異分野交流会

「みつける」「ささえる」「つなげる」

奈良女子大学・神戸松蔭女子学院大学・武庫川女子大学の3大学が主催する関西圏女子大学連携の試みとして「異分野交流会」を開催します。この機会に、女性研究者が連携関係の研究者や技術者など新たな共同研究を立ち上げることで課題の発見・技術革新などを支援し、研究環境の整備とダイバーシティ化を推進します。

Program

13:00 開会 あいさつ 瀬口和義氏 武庫川女子学長

13:10 研究発表

1. 枝松 奈美 (神戸松蔭女子学院大学)
「日本語母語話者のひらがな認識の弁別的要素」
2. 辻 多重子 (武庫川女子大学)
「在宅療養高齢者における食品摂取多様性と低栄養との関連性の検討」
3. 豊永 洵子 (武庫川女子大学)
「効果的なダンス文化の普及に向けた教育プログラムの開発について」
4. 須川 真奈江 (奈良女子大学)・ 星野 聡子 (奈良女子大学)
「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による地域在宅高齢者の QOL への影響 —2年間の追跡調査より—」
5. 奈良 久美 (奈良女子大学)
「植物の環境に応じた水輸送調節の仕組み「アクアポリン」のはたらきを探る」
6. 西川 良子 (神戸松蔭女子学院大学)
「コロナ禍における未婚女性の結婚式観について」
7. 小林 政子 (武庫川女子大学)
「着物修繕の痕跡に関する調査—武庫川女子大学近代衣生活資料から—」

15:30 異分野交流会（グループワーク）

16:30 グループワークまとめ発表

17:00 閉会

2022年
2月5日（土）
13:00～17:00

武庫川女子大学 ZOOM開催

申込先 E-mail: Wcareer@waku.ac.jp
※申込は、第10回異分野交流会事務局へ。本文に氏名・所属、年齢、所属大学を明記し、お申し込みください。

対 象 大学院生・研究者・事務職員・学生
の参加が希望される方

申し込み料 1,300円（税込）
※当日参加費に含めさせていただきます。

申し込み 無料

問い合わせ先 武庫川女子大学 女性学総合研究所
〒641-8687 武庫川女子大学 女性学総合研究所
〒641-8687 武庫川女子大学 女性学総合研究所
E-mail: Wcareer@waku.ac.jp
Tel: 0742-45-3727
Web: www.waku.ac.jp
〒641-8687 武庫川女子大学 女性学総合研究所
〒641-8687 武庫川女子大学 女性学総合研究所
〒641-8687 武庫川女子大学 女性学総合研究所

男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204 e-mail somusomu@jimu.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

「女性研究者支援モデル育成事業」（2006～2008年度）「女性研究者養成システム改革加速事業」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。さらに2019年度には、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業に採択され、ダイバーシティ推進センターと共にさまざまな取組を進めています。

教育研究支援員制度

教育研究支援員制度は、補助金の配分を受けて、研究に関する支援が手厚くなった。この制度は、出産・育児・介護に関わる教員（男女を問わず）に支援員を配置する仕組みだが、男性の方にも利用していただいている。また、令和2年1月より、怪我や病気が理由の場合の教育研究支援員の配置もできるようになった。奈良女子大学で働く教員の皆さまが、ライフイベントの中にあっても研究と家庭を両立できるように取組を進める。

2021年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月以降
利用者数	16名	15名
支援員実人数	28名	27名

子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に答えて、「ならっこネット」を運営し、15年目を迎えた。専属（共助サポーター）による支援を行う「ならっこコース」と、専属のいない「プチならっこコース」を利用者が選択することができる。「ならっこコース」では、Webシステム「Webならっこ」が利用でき、効率よく依頼できる。また、安全で安心な支援を実施するために、大学が保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」、ポストドクターには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されており、小学校6年生までのお子様をお持ちの方がならっこネットを利用した際の託児料を支援している。

2022年2月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は52名（支援される子どもの数75名）、登録サポーター数は66名である。2月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は358件で、うち295件が実施された。また、本年度より運用を開始したならっこ病後児保育は2件の支援が実施された。

今年度は年末ごろには落ち着き始めたと思われた新型コロナウイルス感染症であったが、年明けと共に感染力の強いオミクロン株がまん延し、これまでにない感染者数となり、子どもたちへの感染が増えた。昨年度に引き続き感染拡大防止対策を徹底させた。今年度も昨年よりさらに多くの利用があり、新規の利用者もサポーターも増えた。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行うもので、運用12年目を迎えた。「集団託児」のほか、マンツーマンの「個別託児」が選べ、利便性を高めている。頻繁に利用される団体や部署には、「団体登録制度」をご利用いただき、毎回の手続きを簡略化できるようにしている。昨年度からのコロナ禍で多くのイベントがオンライン開催となっており、依頼は少なくなっているが、今年度2月末時点で「ならっこイベント」の依頼件数は16件、うち11件実施しており、のべ126名の子どもたちの託児を行った。

サポーター講習

子育て支援システムを安全、安心に運営するためには、信頼のおけるサポーターの養成が欠かせない。サポーターに自信をもって支援活動を行っていただけるよう、必要な知識とスキルを十分に学ぶことのできるサポーター講習を実施することが必須である。

本年度は、健康時の支援を行うための基礎知識やスキルの習得を目的とした『通常託児支援のための講習』（「サポーター登録説明会」を含む12時間）、病児・病後児保育支援に必要な子どもの病気に関する知識や看護スキルを学ぶ『病児・病後児保育支援のための講習』（オンデマンド配信講座を含む10時間）を実施したほか、子育て支援に関する知識や技術を更に広く深く学んでいただくための講習として、新たに『フォローアップ講習』を開講し、10月～12月に下記の3講座を開催した。

- ①訪問型病児保育で大切にしていること
- ②嘔吐処理実習
- ③【公開講座】発達が気になる子どもへの理解と生活場面での対応

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響がある中での開催となったが、学内での対面講習では感染防止対策を行って実施したほか、登録サポーターへのオンデマンド配信を行った。また、一般公開講座ではオンライン同時配信も行い、子育て支援に関心のある一般の方々が多く参加され、大変好評を得た。



ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のワークライフバランス支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。女性特有のこころとからだの悩み相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護(高齢者・障がい者)福祉に関する相談等、健やかにワーク・ライフ・バランスを保てるように支援を行っている。相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。また、2019年10月より、奈良工業高等専門学校及び武庫川女子大学、また2021年4月よりプロアシスト社、佐藤薬品工業社、帝人フロンティア社も共同利用ができるようになった。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大が続いているため、相談は来室とオンラインの両方で対応した。また今年度開催した「ワークライフバランス支援相談室ミニ講座」では、「介護保険・障がい者福祉制度についての知識や介護予防など役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに、すべてオンラインにて開催した。共同実施機関の方を含め、たくさんの教員・職員・学生の皆様に参加していただいた。



情報の発信

今年度(2月末現在)は、「ならっこネット通信」(メールマガジン)を4回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を13回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、ワークライフバランス支援相談室チラシを2回発行した。

ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児支援室であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や子育て支援システム利用者のご家族、お子様を連れて来学された方などが利用できる。消毒用アルコール・フェイスガード・パーティションなどの設置、空間除菌脱臭機・換気扇を24時間稼働させている。利用する方々にマスク着用・手洗い・アルコール消毒・換気の呼びかけを行い、室内や備品などはこれまで以上にこまめな清掃と消毒を行った。2月末現在で75件の予約があり、うち64件の利用があった。利用者のご家族とお子様はゆっくり過ごしたり、お子様を室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者も多い。今年度も新しい利用者やお子様の登録も増え、ますます需要が高まっている。

女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性研究者にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生・ポストドクターにも配信している。2021年度(2月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会案内等、45件の情報配信を行った。

研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業では、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速事業」(2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めてきた。2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大し、2020年度からは、支援対象を全ての分野へ拡大し、対象者も、常勤職員(助教・講師・准教授・教授)だけではなく特任教員、博士研究員からの応募を可能とした。

2021年度研究活動支援事業の活動実績

◆研究スキルアップ経費支援

女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

2021年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	工学系研究者	農学系研究者	文系研究者
4件	1件	2件	1件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/keihishien/>

e-mail : j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp

ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax : 0742-20-3344

URL : <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

e-mail : shien@cc.nara-wu.ac.jp

キャリア開発支援本部

2021年3月に博士号取得支援SGCフェローシップ事業が、また後期から博士後期課程学生支援SGC+プロジェクトがスタートしました。キャリア開発支援本部ではSGCフェローシップ支援部門、SGC+運営チームを位置づけ、実務を担当することになりました。これまでのC-ENGINEの研究インターンシップ、自己分析セミナー、進路に関する相談等の継続と、新規事業に関連する授業やイベント等の企画も担当しています。

博士後期課程学生への給付型支援制度がスタート



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
科学技術イノベーション創出に向けた
大学フェローシップ創設事業

奈良女子大学博士号取得支援

SGCフェローシップ（給付型）の概要

経済的支援

- 研究専念支援金：192万円/年
- 研究費 18万円/年
- 令和4年入学者は授業料免除（次年度以降も同様となる可能性あり）

研究力向上支援

- メンターチームによる研究支援体制の構築
- 研究活動助成と研究力向上セミナーの開催

キャリアパス支援

- キャリアパス支援に関わる授業の強化
- 研究インターンシップに挑戦する学生の支援
- キャリアネットワーク形成支援（交通費の支援）

連携体制

学内の各機関の連携体制は右図のとおりで、キャリア開発支援本部はC-ENGINEとも連携して事業を推進することとなった。

採択者の状況

SGC

- 2021年度分の学生募集：D1のみ
4月、9月、11月に募集し7名が採択され、6名が支援を受けている。
- 2022年度進学予定学生対象募集：M2
4月募集で4名が採択（内定）された。

SGC+

9月に全学年を対象に募集し、D1が4名、D2が6名、D3が4名採択された。

各種セミナー等のイベント

以下のチラシに示すイベントのほか、「国際学会プレゼンテーショントレーニング」や、次ページに示す授業①を通じて、受給者の研究力およびキャリアパス支援を行った。



国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
次世代研究者挑戦的研究プログラム

奈良女子大学
博士後期課程学生支援

SGC+プロジェクト（給付型）の概要

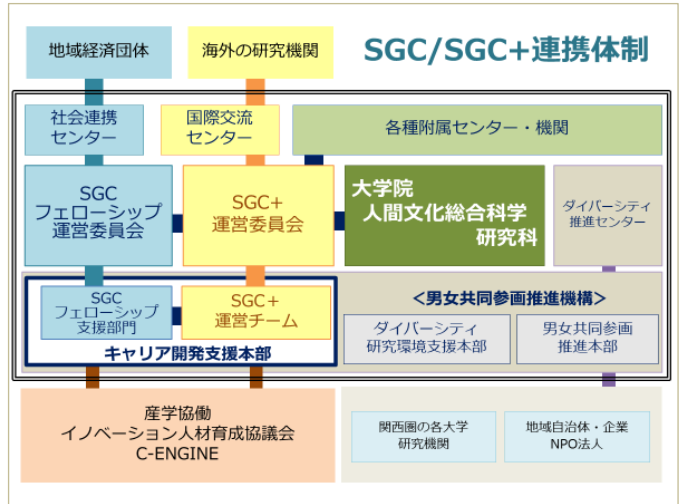
SGCとの共通点

- 事業の方針や理念は共通している
- 運営面でも密接に連携している

SGCとの主な相違点

- 研究奨励費：216万円/年
- 研究費：18万円～102万円
- 海外派遣またはインターンシップを義務付け

2021年度はSGCフェローシップには年齢制限、社会人経験の有無等の応募条件の違いがあったが、2022年度からは無くなることになった。



広報活動の展開

制度の周知を図るために、2021年3月に新規HPの立ち上げを行うとともに、大学会館にデジタルサイネージを設置して、募集活動やイベント情報の広報に活用した。

さらに、HPに用いたキャラクターのイラストを各種媒体にも用いて、以下の広報活動を展開した。

- 制度の解説とドクターコースを紹介する冊子“What's SGC/SGC+ & Invitation to Doctoral Course”
- 電車内ポスター掲示(2/28～3/6)
- 解説用動画の作成とHPへの掲載

新規HPのアドレスは次ページに示す。

授業支援① 博士後期課程

●キャリアセミナー

(ビジネススキル・インターンシップほか) B

日常の研究活動の中で、トランスファラブルスキル（転用可能な能力）についての意識化を促し、選択したスキルの自己評価と他者からのコメントを得る機会等を提供した。受講者3名が相互のプレゼンを通じて考察を共有した。

●自己分析・ワークスタイルセミナーB

ワークを用いた自己分析と、学生が主体的にセミナーを企画する実習形式の機会を提供した。自分のキャリア形成にプラスの影響を与えうる講師を選定し、企画から実施に向けて取り組んだ。

13人が受講し、右表に示す7件の企画が実施に至った。

実施日	学生企画によるワークスタイルセミナーのテーマ
1/13	留学生が卒業後に大学で働く話 －奈良女子大学の留学生に伝えたいこと－
1/18	研究会のノウハウ講座 －主体的に研究を進めていくために－
1/25	女性研究者のキャリアの積み方 －子育てと研究、どうやったら両立できる？－
2/3	私たちの社会と研究 －研究者の視点から考える社会還元と研究広報活動－
2/18	理系研究者としての学び －高専での教育と研究について－
2/21	研究を続けていく上で大切なこと －海洋生物学の場合－
2/22	混沌の時代の研究者のキャリア形成に向けて －海外での転機がもたらしたもの－

授業支援② 博士前期課程

●プレゼンテーション演習

キャリアを切り拓く上で、自身が打ち込んできた研究について、分野外の人にもわかりやすく、その価値についても説明できることは大きな強みとなる。そのためのプレゼンテーションの方法を実践的に身につける機会を提供した。社会人学生1名の受講があった。

●女性専門職キャリア論

キャリア開発支援本部がこれまでに蓄積してきたセミナーのDVDライブラリーを活用して、「ビジネススキル」「職業能力開発」「国際貢献」「起業等」の分野から、受講者が選択、視聴し、2回のプレゼンで感想、考察、自己の人生についての想いを共有する機会を設けた。社会人学生1名を含む6名が受講した。

C-ENGINEの「研究インターンシップ」 7名をコーディネート

2021年度の実施状況は下表のとおりである。2020年度に参加した博士後期課程2年の学生が、今年度インターンシップ先に就職内定したケースがあった。本インターンシップが後期課程学生の企業就職に良い影響を与えた事例であり、フェローシップ事業におけるキャリアパス支援を担う取り組みとして期待できる。

2021年度 C-ENGINE 研究インターンシップ実績

所属 (専攻/コース/学年)	インターンシップ先	実施期間 (実施体制)	テーマ
住環境学専攻	M1 京セラ(株) けいはんなリサーチセンター(京都)	9/27～10/22	ガスセンサの性能評価
数物科学 (物理学コース)	M1 (株)堀場製作所(京都)	10/12～11/5	粒度分布測定装置開発
数物科学 (数学コース)	M1 日東電工(株) (大阪)	11/1～11/26	人工知能による検査装置検出画像の分類検討
数物科学 (物理学コース)	M1 (株)堀場製作所(京都)	11/2～11/19	表面下散乱光の測定
自然科学専攻	D2 京セラ(株) けいはんなリサーチセンター(京都)	11/2～11/30 ハイブリッド	めっき形成時の電流解析
数物科学 (物理学コース)	M1 三菱電機(株) (兵庫)	11/29～12/3 全過程リモート	業務用空調機の冷媒制御技術の開発
数物科学 (数物連携コース)	M1 日東電工(株) (大阪)	11/29～12/24	マテリアルズインフォマティクスの実際系への応用

その他の活動

- 大学院生等のキャリア（就活）等相談、自己分析セミナー（授業とは別に）
- 学術振興会特別研究員等申請書作成支援 7名
（科研費申請（博士研究員） 1名）
- ドクターコース進学説明会、学振説明会、受給者向け説明会にて支援内容の説明
- 学位取得に関する企業の研究者向けアンケート
- 研究インターンシップに関する契約事務等

事務室、相談室の移転と、人員の増員

2021年9月に事務室と相談室がそれぞれG406、G414に移転した。

補助事業に関する業務の増加に伴い、IT関係の業務に関して学術情報センター教務補佐員の協力を得られるようにした。また、キャリアコーディネーター1名（12時間/週）が8月から、事務補佐員1名（12時間/週）が1月から増員となった。

男女共同参画活動のアピールー自治体・他団体等との連携への取り組みー

◆奈良県・なら男女共同参画週間パネル展に協力参加

2021年11月19日(金)～11月21日(日)に開催された令和3年度なら男女共同参画週間イベント(奈良県女性センター主催)に協力参加した。本学からは男女共同参画推進機構の取組に関するパネルを展示した。

◆全国ダイバーシティネットワーク組織・近畿ブロック会議に協力参加

2021年6月29日(火)令和3年度第1回近畿ブロック会議・実務者間ネットワークがオンラインにて開催され、今田ダイバーシティ実現イニシアティブコーディネーターが協力参加した。

2022年2月22日(火)令和3年度第2回近畿ブロック会議がオンラインにて開催され、安田男女共同参画推進機構長が協力参加した。

◆第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議に協力参加

2021年8月5日(木)にオンラインで開催された「第1回南近畿女性研究者支援ネットワーク会議」に藤原副学長、安田男女共同参画推進機構長、春本ダイバーシティ推進センター特任教授、今田ダイバーシティ実現イニシアティブコーディネーター、立堀ダイバーシティ推進コーディネーターが協力参加し、取組事例報告として、「附属病院をもたない機関における「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築」について、安田男女共同参画推進機構長が発表した。

◆奈良ソントクラブ理系若手女性研究者奨励賞第2回選考と授賞式

「奈良ソントクラブ理系若手女性研究者奨励賞」の第3回選考を行い、城戸千晶氏(大学院人間文化総合科学研究科生活工学共同専攻(博士後期課程)・日本学術振興会特別研究員DC1)を第3回受賞者に決定した。授賞式は2021年9月21日(火)にオンラインにより挙行されました。

◆サクヤヒメと語るキラリカフェ「働くって、どんな風に？」に協力参加

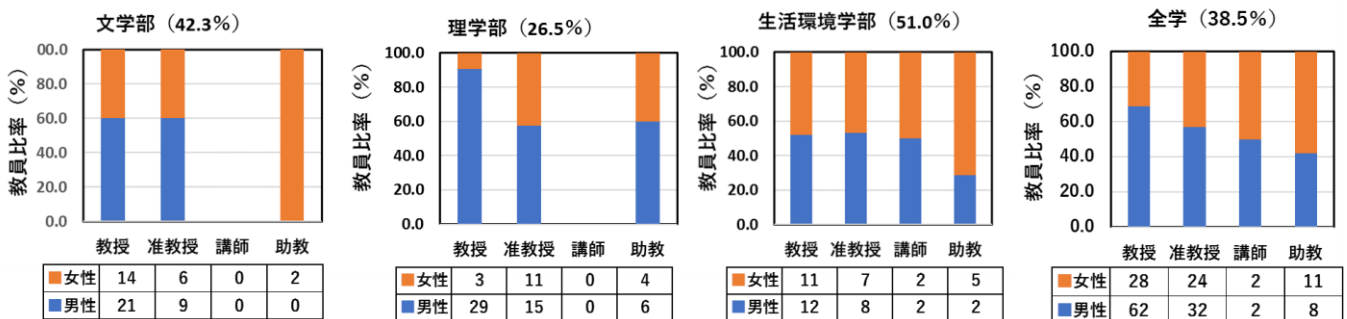
2022年3月2日(水)大阪市立大学女性研究者支援室主催の「サクヤヒメと語るキラリカフェ」に、今田ダイバーシティ実現イニシアティブコーディネーターと大高千明氏(生活環境学部・助教)、大学院生3名が参加し、企業で活躍する女性リーダーと歓談した。

奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2021年5月1日現在で169名。そのうち女性教員は65名(38.5%)である。2005年から14年間に渡る男女共同参画推進機構(男女共同参画推進室としてスタート)のリードによって女性研究者への支援体制が整備されたこともあり、女性教員比率は徐々に上昇してきた。学部別に見ると、文学部42.3%、理学部26.5%、生活環境学部51.0%となっている。職階別による女性教員比率は、学部によって事情が異なるが、概して上位職階は低く、下位職階にいくほど高くなる傾向にあり、やや改善がみられるものの、14年前と傾向は変化していない。2017年に本学は「女性活躍推進法に基づく行動計画」において、女性教員比率の目標値を38.0%と設定しており、昨年度は文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)に採択され、女性研究者の研究力向上、研究環境改善に向けて様々な取組が始まっている。今後成果が期待されることである。

奈良女子大学教員の男女別人数(2021年5月1日現在)

大学全体の女性教員比率38.5%



* 教員は学部所属する教授・准教授・講師・助教とした。* * 図中括弧内の数字は各学部の女性教員比率を示す。

編集・発行:奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先:奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <https://gepo.nara-wu.ac.jp/>

